

市営上九沢団地に笑顔と賑わいを

— 待ちに待った移動販売車がやって来た！

2023年秋、市営上九沢団地住民がかねてより待ち望んでいた、団地敷地内への移動販売車の導入が実現しました。11月から農産物販売、12月からは一般食品と総菜の移動販売車が入り、高齢の住民のみなさんは、「遠くまで重い野菜を買いに行かずにすんで嬉しい」、「選ぶ楽しさを味わえる」、「買いたい物をしながらおしゃべりができる」と、笑顔でその喜びを語ります。

コミュニケーション活性化を模索

市営上九沢団地は、2001年から03年にかけて緑区上九沢に建設された、6階から15階建ての住居棟7棟に387戸をもつ、市内でも1、2の大規模な公営集合住宅です。現在350世帯が居住していますが、ひとり親家庭や、高齢者のひとり暮らしが多いという、今

の社会を映し出している団地です。

2010年、上九沢団地に南区から転居してこられた吉澤肇さんは、2012年に団地の管理組合理事長を引き受け、2013年には民生委員・児童委員も委嘱され、それらの活動を行いながら、地域のコミュニケーションを活性化していくにはどうしたらいいかを模索していました。

民生委員の先輩に相談するうちに、若者サポート団体、地域社会福祉協議会、大学教授、小学校長などのみなさんが集まり、上九沢団地のコミュニケーション活性化のために会議を重ねるようになりました。そして、「地域が子どもを育てる子どもと大人の交流の場を」というスローガンを形にした「くすのき広場」（大人も利用できる子ども食堂と無料塾）を誕生させました。辞



一般的な公営団地とはちょっと違う、洗練されたデザインの市営上九沢団地

細は「アゴラ」101号に吉澤さんが寄稿されています。

「車両が入ってくる危険だから…」

諸事情から一旦は管理組合理事長から身を退いていた吉澤さんですが、2023年4月、再び管理組合理事長を引き受け、問題解決に向かって動き出しました。

前回理事長だった時には、地下駐車

場の照明用電気料金が共益費から支払われているのに疑問をもち、市の住宅課に疑問を投げかけ改善を要望しました。結果として、電気代は管理組合に戻されることになり、それを資金にして団地内24か所に防犯カメラを設置することができました。

そして今回の問題は団地住民の買い物です。上九沢団地に転居して間もない頃から、吉澤さんは高齢者の食料品な



11月22日、本格的に始まった「つどや」の販売。団地の敷地内なので、杖を使う人も、歩行器を使う人も、車椅子の人も買い物容易に

ど日常の買い物を気にかけていました。とりわけ最近では、近隣の県営団地などにイオンや「くすのき丸」（事業者はイトーヨーカドー）の移動販売車が導入され始め、住民に喜ばれているという話を聞くようになり、



買い物をしながら、あちらこちらでおしゃべりが…。これが大事！と吉澤さん

をするのは、80歳前後の高齢者にとっては大変なことでした。息子や娘に買い物してもらいたい家まで届けてもらっている、という人も多くいるそうです。

再び管理組合理事長となった吉澤さんは、6月の総会で、移動販売車の導入を市に働きかける具体的な取り組みをしてくことを提案。13人の理事の合意を得、署名を集め、市に要望書を提出することを決めました。

7月末には、理事のみなさんが集めた署名は280筆に。8月10日、その署名を携え、市住宅課へ要望書の提出に向かいました。

すぐに動いてくれることを期待していましたが、動きがあったのは要望書提出から2か月後でした。10月10日、ようやく、まちづくり推進部の部長、住宅課の課長、担当者、管理組合側

署名を集め、要望書を提出

しかし、住民の高齢化は進みます。一番近いスーパーマーケットでも1キロ以上あり、徒歩で買い物の行き帰り



買い物を楽しむ人たちに目を細める吉澤さん。30年ほど前に仕事で行った山奥の村で、楽しそうに移動販売車で買い物をする人たちを見た。自分もいつかこんなふうにならなうに人を喜ばせることができればいいと、その時思ったそう。

が話し合いをすることができ、「どれほどのニーズがあるか、移動販売車のテスト導入をしてみよう」という回答を引き出すことができました。

テスト導入時には100人が

管理組合は、11月6日と8日、農産物の移動販売事業者「つどや」による導入テスト実施を決めました。初日の6日には、販売開始時間の前から人が集まり、30分のうちに約100人が買物にやって来ました。2回目の8日は、前回から直近とあつてさすがに人数は減りましたが、それでも30〜40人が、おしゃべりを楽しみながら野菜を



セブンイレブンにはお客さんが殺到。次回に持ってきてほしい商品を注文する人も

選ぶ姿がありました。

この様子を知った住宅課の職員たちは、住民の反響に驚き、移動販売車が必要とされている現実を知ることとなりました。このような経緯で、11月22日から「つどや」の農産物販売は、週2回、本格的に始まることになりました。

その後、勢いづいた管理組合のみなさんは、セブンイレブン、社会福祉法人相模福祉村と折衝し、契約を結び、11月29日には両事業者の移動販売車導入の届けを住宅課に提出しました。こうして、食料品一般をセブンイレブンが、総菜類を相模福祉村が、移動販売車によって上九沢団地で販売でき

ることになりました。

12月6日、セブンイレブンの販売初日には、多くのみなさんがコンビニ商品の買い物を楽しみ、13日の相模福祉村の販売では、用意された70個の揚げたてコロッケが完売したそうです。

今、市内に、移動販売に取り組む事業者はいくつかありますが、どこもすでに契約が目一杯だそうです。「もう少し早く市が動いてくれたら、豊富な商品を扱う大手スーパーマーケットとも契約ができたのに」と、吉澤さんは少しだけ残念そうでした。

市営上九沢団地内 移動販売 予定
：週 回 月曜日 午後 時
水曜日 午前10時15分 各30分程度。

時過 各 時間程度。
相模福祉村：月 回 第、第 水曜日
午前10時 各 時間程度。
(団地外 方 利用)

認定「さんま焼き師」が腕を振るう サンマ祭り

11月7日、移動販売車の本格導入に

期待が高まる中、くすのき広場は「サンマ祭り」を開催しました。銀河連邦共和国（）の縁で姉妹都市となっている大船渡市の鎌田水産が、相模原市内の子ども食堂12か所に、計1000尾のサンマを無償提供されることとなり、くすのき広場にも200尾が贈られることになりました。



サンマ祭りの様子

この喜ばしい出来事は、東日本大震災以降、大船渡市で復興支援活動が続けておられる笹本二郎さん（相模原市在住）の尽力によるものです。

笹本さんは大船渡で修行を

積み、大船渡市観光物産協会による「さんま焼き師」にも認定されています。くすのき広場でも、本格炭焼きサンマを振る舞ってくれました。

見た目もおいしそうな焼

き色のサンマを、普段焼

き魚を食べないという

女子中学生が、きれいに

骨だけを残して完食

した様子が周囲の大人

は大喝采、そんな一場面

さんま焼き師 笹本さん



(取材山田)

(※) 銀河連邦共和国…宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の研究施設が置かれている、または、置かれていた日本の自治体で構成した交流組織。